

津波避難路の整備を

伊豆・土肥
二稗会、区長ら

菊地市長に要望



菊地市長(左から3人目)に高台への避難路の現状を説明し整備を要望する二稗会関係者ら＝伊豆市の土肥小裏山

れておらず手すりもない。装と手すりの設置をお願い状態。関係者は「ぜひ舗いしたい」と要望。菊地

市長は前向きな検討を約束した。
大木会長は「高齢者らのことを考えると、避難路の整備は必要。できれば校舎屋上から裏山への橋も検討してほしい」と話した。
同会は、旧土肥町消防団第2分団(中浜、平野、屋形の3区)と、現伊豆

市消防団第12分団(土肥地区)のOBのうち、部長以上経験者に呼び掛け2010年4月に発足。3区内を活動範囲に、火災など消防団活動時に現場で後方支援に当たるほか、住民の防火意識の啓発活動も行うことを目的としている。

伊豆市土肥地区の中心3区在住消防団OBでつくる「二稗会」(会長＝大木映作・元土肥町消防団長)はこのほど、津波避難路の整備を菊地豊市長に要望した。

自主的に行っている定期訓練の際、たまたま土肥を訪れていた菊地市長に避難路の現状を見てもらい説明した。大木会長ら同会会員のほか、中浜

区勝呂和重区長、青木均会計、平野区野田博司相談役(前区長)らが立ち会った。

中心地住民は津波の恐れがある時は、最寄りの避難ビルや高台に避難することになっている。ところが多くの住民が避難するとみられる土肥小の裏山は、舗装されているのは校舎の2階相当の高さまで。その上は舗装さ